

ズムの研究 生物資源科・関泰一郎准教授

高田庄に肥満、糖尿病の固まり（血栓）がうまく溶けなくなる。そのため心筋梗塞や脳卒中、過去の生活習慣病との関係を全てここに集約したが、ポインツは疾病予防の特効薬を食品自体が含む栄養成分の中に追求する姿勢にある。食品内の成分だけに、安全性も高い。食品を分子レベルから新たに捉え直すといふ試みは、今日では一般的な「機能性食品」を生み出す先駆けになった。

独自的な研究を続けるが載って「難名を挙げた中で、世界的に注目されたのはニンニクの抗がん作用が2年前。実は世界の通説

が一見まったく関係の作用物質の仕組み解明。ニンニクがんの予防効果があること自体はすでに知られていたが、成分

スビーカーに呼ばれて2回ほど講演。今ではすっと分かっていなかった。がん作用があることを探

り当てた。

米国の雑誌で評価され、2005年に米国の権威のある科学雑誌に論文

が載って「難名を挙げた中で、世界的に注目されたのはニンニクの抗がん作用が2年前。実は世界の通説

が一見まったく関係の作用物質の仕組み解明。ニンニクがんの予防効果があること自体はすでに知られていたが、成分

スビーカーに呼ばれて2回ほど講演。今ではすっと分かっていなかった。がん作用があることを探

り当てた。

肝臓といえど、栄養素を書き換える内容に、抵抗もまた根強いものがあつたのである。ところが、タンパク質の合成など、

抗がん物質が大腸がん細胞を死に誘導するメカニズムを明確にした結果は認めないわけにもいかず、自身も国際学会のゲストスピーカーに呼ばれて2回ほど講演。今ではすっと分かっていなかった。がん作用があることを探

り当てた。

肝臓といえど、栄養素を書き換える内容に、抵抗もまた根強いものがあつたのである。ところが、タンパク質の合成など、

抗がん物質が大腸がん細胞を死に誘導するメカニズムを明確にした結果は認めないわけにもいかず、自身も国際学会のゲストスピーカーに呼ばれて2回ほど講演。今ではすっと分かっていなかった。がん作用があることを探

り当てた。

肝臓の再生機構を解明 食品を分子レベルから見据え

ニンニクの抗がん作用物質の仕組みも

の酵素が肝臓の細胞膜表面にある特定のタンパク質のリジンというアミノ酸を切削することによって肝再生を調節することで、今後は肝硬変など治療の困難な病気の新しい治療法の確立、ES細胞や万能細胞を使った肝細胞の調製法の確立へと

夢が広がる。

医学まで研究は多岐に広がるが、元々は血液の凝固・線溶機能の探求といふ基本研究が発展点。広く問題解決能力の向上に

意あふれる研究陣だ。それだけに、学部の学生や大学院生への教育にも力を入れるのがプレゼンテーション。週に最低1回、研究室セミナーで発表

され、研究助成の申請も手助けする。こちらは自立

して、朝から晩まで追われて当分は休めそうもない

一方、大学院生は国内でも分かる。

外での学会や研究会での「うちの研究室の強み」と呼ぶべき研究会を積極的に与え、教授からの学生までの同

じ目線で議論に加わる

学生に何が必要かが痛いところ」。研究から指導

まで、朝から晩まで追われて当分は休めそうもない

一方、大学院生は国内でも分かる。

外での学会や研究会での「うちの研究室の強み」と呼ぶべき研究会を積極的に与え、教授からの学生までの同

じ目線で議論に加わる

学生に何が必要かが痛いところ」。研究から指導

生活習慣病

と「食べ物」

の接点を中心にして研究を進めてきた。

高田庄に肥満、糖尿病の固まり（血栓）がうまく溶けなくなる。そのため心筋梗塞や脳卒中、過去の生活習慣病との

関係を全てここに集約し、そのメカニズムはどう

かと「食べ物」

の接点を中心として研究を進めてきた。

高田庄に肥満、糖尿病の固まり（血栓）がうまく溶けなくなる。そのため心筋梗塞や脳卒中、過去の生活習慣病との

関係を全てここに集約し、そのメカニズムはどう